

陳 述 書

水戸地方裁判所 御中

平成 26 年 5 月 3 日

住 所

氏 名

石 原 博

1、私は、~~水戸市 白根町~~ ^{水戸市 白根町}に本社を置く株式会社塩屋（以下「弊社」と言います）を経営している者です。弊社の活動拠点は、~~水戸市 白根町~~ ^{水戸市 白根町}に置いてあります。

2、弊社は生協、JA、宅配のヨシケイ様に県産品と東北の水産品といった物を中心に企画品を納品させて頂きながら 20 年、営業しております。商品として、しらす、あじ、いわし、タコ等の県内外の産品を扱いつつ、主力商品としては「涸沼産しじみ」「国内産あさり」をご提供しております。

震災直後は、復興支援の号令のもとに県内外の水産品は流通に乗ってきたように見えておりましたが、復興支援の掛け声が沈静化しつつある今、厳しい現実が見えてきたように思います。

3、何よりも厳しい現実として立ちはだかるのが原発の「風評被害」の問題です。

当初こそ「震災復興」を名目に各種メディア、マスコミが被災地域の産品を取り上げ、ポジティブなイメージを発信していたものの、それがニュースとしてあまり取り上げられなくなってきた今、消費者にとっては TV、新聞を通じて放射能の危険性をより強く感じるもののほうが多くなっているのではないかと考えます。

現実問題として、消費者の動向に敏感な大手業者は被災地域産品の取り扱いをやめる方針を打ち出しており、茨城の県産品は売り先がなくなりつつあるのが現状です。営業に行って企画提案を行おうとしても「被災地域（茨城含む）の商品は交渉テーブルには載せない」とハッキリ言

われてしまう現実がある中で、茨城の間屋としてどう立ちまわって行けばいいのか、非常に苦慮しております。



「この商品は茨城の那珂湊で作りました。」と説明すると、「う～ん？」と首を傾げてしまうお客様がいらっしゃいます。私共も、放射能に関して随分と勉強して安全な商品を提供しておりますが、若いお母さん方にしてみれば「怖いものは受けとりたくない。」、と言うのももったもな話であると思います。私共にとって最も辛いのが「茨城の物は駄目、ましてや涸沼の物などはもってのほか」と言われることです。これは茨城を含めた被災地域、福島、栃木の物は“駄目”という観念が消費者に浸透しているということでもあります。午後6時のTVニュースで東電福島第1原発の放射能の垂れ流しが社会に広く放映されているような中では、私共がどんなに理を尽くして商品説明をしても無意味であろうことはご想像頂けるかと存じます。

- 4、東電の補償に関しては全くもって精細を欠いたやり方で行われていると感じております。

震災時に東北の業者は軒並み営業ができなくなったことで、弊社は最も北端に位置する窓口として（当時）活動しておりました。その結果、見かけの売上だけは増大したものの実際の利益率で言えば極端に低下し、それまで23%の利益で動かしていたものを2%の利益で動かすといった苦境に陥りました。

その補償として、東電には1000万円の請求を行ったものの、回答と

して「8万円の補償を行う」と言い渡されました。その根拠として、「売上は増えているのだから補償対象外、利益率は判断基準にならない」と言われましたが、到底納得できる話ではありません。結局その補償に関しては、弊社は、一切受け取っておりません。また、県に対する補償請求においてもほぼ同じことを言い渡されました。

- 5、弊社においては20年にわたり涸沼のしじみ漁師から直接買い付けを行い、商品供給を行って参りましたが、現在は他産地のもの（網走、江戸川など）を仕入れて取引先の要望に対応しております。いつかは涸沼のしじみが以前のように流通することを期待しながらも、そうした対応をせざるを得ないのが現状です。

今や消費者は、被災地域のものを買う人、買わない人で明確に分れてしまっております。震災前であればお客様にお買い求め頂けたものが、放射能が危ないということで半分になり、その半分のお客様がさらに半分になり、結局は4分の1のお客様が残って下さったのみであるかと思っています。



- 6、弊社では放射能に関する各種の分析データを商品ごとに用意しております。

こういったものを整備しておかないと商品は受け入れてもらえず、たとえそのデータによって放射能が検出されないことが証明されても、結局「産地の名前」で弾かれてしまうことが多くあります。そうした厳し

い状況に加え、茨城県は復興支援の盛り上がりも薄く、各企業の自助努力によって活路を見出すしかない状況です。



原発の実質的被害も風評被害も共に存在するのに、何ら適切な補償が行われなかった、誤魔化された地域というのが茨城であると思います。

この誤魔化しに対して声を上げる方々がいらっしゃるということで、お力になればと思い、この度は証言させて頂くことにしました。

茨城の産業が立ち上がるきっかけに、ほんの僅かでも寄与できれば幸いです。

以 上